

## ⚠ 使用上の注意



## してはいけないこと

(守らないと現在の症状が悪化したり、副作用がおこりやすくなります)

- 次の人は服用しないでください。
  - 本剤又は本剤の成分によりアレルギー症状を起こしたことがある人。
  - 本剤又は他の解熱鎮痛薬、かぜ薬を服用してぜんそくを起こしたことがある人。
- 本剤を服用している間は、次のいずれの医薬品も服用しないでください。  
他の解熱鎮痛薬、かぜ薬、鎮痛薬。
- 服用前後は飲酒しないでください。
- 長期連用しないでください。



## 相談すること

- 次の人は服用前に医師、薬剤師又は登録販売者に相談してください。
  - 医師の治療を受けている人。
  - 妊婦又は妊娠していると思われる人。
  - 薬によりアレルギー症状を起こしたことがある人
- 服用後、次の症状があらわれた場合は副作用の可能性があるので、直ちに服用を中止し、この文書を持って医師、薬剤師又は登録販売者に相談してください。

関係部位	症 状
皮膚	発疹・発赤・かゆみ
消化器	吐き気・嘔吐、食欲不振
精神神経系	めまい

まれに下記のような重篤な症状が起こることがある、その場合は直ちに医師の診療を受けてください。

症状の名称	症 状
ショック (アナフィラキシー)	服用後すぐに、皮膚のかゆみ、じんましん、声のかすれ、くしゃみ、のどのかゆみ、息苦しさ、動悸、意識の混濁等があらわれる。
皮膚粘膜眼症候群(ステイブンス・ジョンソン症候群)、中毒性表皮壊死融解症	高熱、目の充血、目やに、唇のただれ、のどの痛み、皮膚の広範囲の発疹・発赤、急激に悪化する。
ぜんそく	息をするときゼーゼー、ヒューヒューと鳴る、息苦しい等があらわれる。

- 5～6回服用しても症状がよくなる場合は服用を中止し、この文書を持って医師、薬剤師又は登録販売者に相談してください。

## ▲ 用法及び用量

大人(15歳以上)は1日量 10gにつき、水約 600mL をもって煮て、約 400mL に煮つめ汁をこして取り去り、食前又は食間3回に分服してください。

<用法・用量に関する注意>

◎服用に際して、定められた用法・用量を守り、正しくお使いください。

## ▲ 効能及び効果

筋肉痛、神経痛、関節痛

## ▲ 保管及び取り扱い上の注意

- 直射日光の当たらない、湿気の少ない、涼しい所に保管してください。
- 小児の手の届かない所に保管してください。
- 他の容器に入れ替えないでください。
- 開封後はなるべく早く使用し、長く放置しないでください。
- 煎薬の場合は、腐敗防止のため煎液を冷所に保管してください。
- 本品には防虫防カビのため脱酸素剤を封入しておりますが、これを本品と一緒に煎じたり、食べたりしないようご注意ください。
- 服用に際しては、説明文をよくお読みください。

品質には常に細心の注意をはらっておりますが、本品は天然物(生薬)の性質上、吸湿してカビが生えたり、虫がつくことがあります。万一不良品がございましたら開封後でもお取替えいたします。

